

令和7年度 学校教育到達目標 高島市立本庄小学校

<児童の実態>

- 向上心を持ち、目標に向かって努力できる。
- 誰とでも仲良く、協力して活動できる。
- 何事にも、真面目に取り組める。
- 控えめで、積極的に行動することが苦手な子が多い。

<本校の教育課題>

- 基礎学力の定着や思考力・表現力の育成に課題がある。
- 助けや指示を待つことが多く、主体的に粘り強く学ぼうとする姿勢に欠ける。
- 読書習慣が定着していない。
- 少人数で、決まった集団の中で過ごすため、人間関係を広げたり、コミュニケーション力を身につけたりする機会が少ない。

<地域の実態等>

- 滋賀を代表する自然遺産の琵琶湖に近く、豊かな自然環境に恵まれている。
- 学校の取組に理解があり、協力的な保護者や地域の方々が多い。
- 少子高齢化や人口減少に伴う地域力の低下、文化や伝統の継承への不安がある。

<令和6年度学校評価の概要>

- ・授業では、全員の意見を引き出す工夫もされていて大変良い。また、自分の思いが口に出せる環境、人の弱さやつらさを一緒に考えてあげられるように導いておられる。継続してもらいたい。
- ・駐在所の方が毎朝、子ども達を見守っていただいて、学校の安心安全が、担保されている。あいさつも、温かい挨拶ができるようになった。
- ・学校、児童、学運協の熟識はあるが保護者と学運協委員の意見交換の機会がないことは残念。また、地域のつながりやボランティア活動等とも上手に結び付けられるとよいように思う。
- ・環境が変わっても自分の信念を変えることのない教育とは？モデルとなる身近な大人はどうあるべきか。卒業後も地域との関係性が継続できるような活動ができると良いと思う。
- ・縦割り活動を増やし、上級生が下級生に接する点（優しく、丁寧に説明）を伝承していけないか？
- ・体験、経験させるよい活動が多い。人と触れ合うことで温かさを感じるができる。
- ・子ども達が地域で活躍の場を作らせていただいていることは、子ども達の人間形成にとって非常に良いことである。
- ・児童との意見交換に参加して、子ども達の発言内容に感心した。思いや意見の理由付けがしっかり言えていた。日々の学習の積み重ねだと感じた。

- めざす 子ども像
  - ・心身ともにたくましい子
  - ・志を持ち、実現しようとする子
  - ・互いに認め合い、尊重し合う子
- めざす 学校像
  - ・安心、安全な学校
  - ・子どもが生き生き学ぶ学校
  - ・地域に根ざした信頼される学校
- めざす 職員像
  - ・専門性を発揮して組織で協働
  - ・使命感をもって子どもを育てる
  - ・自らの襟を正し、信頼を得る

<学校教育目標等>

校訓

『たくましい子 本庄の心』

「地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子どもの育成」

<中期的(3年間)目標>

- 基礎学力の定着を図り、思考力・表現力を伸ばす
  - ・自ら学ぶ力を高めるとともに、学びを深める授業づくりを行う
- 自ら考え、ともに学び合う力をつける
  - ・自らの志を実現しようとする意欲を育てる
- 豊かな心とたくましい体を育てる
  - ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る

【本年度の指導力点】

学力向上のための力点

- 自ら学ぶ力を高め、ともに学びを深める授業
  - 思考力育成の礎となる語彙力・表現力の向上
  - 家庭学習習慣の定着と読書習慣の醸成
  - 学校図書館活用の充実
  - 未来を見据えた教育の充実
- 外国語活動、キャリア教育、ICT活用、個別最適で協働的な学び

豊かな心を育むための力点

- 互いの個性を尊重し、つながり合う集団づくり
- 様々な人と関わる経験ができる取組
- 自己肯定感を高める取組
- 人権意識(自分も相手も大切にできる)を高める取組
- 個々のニーズに対応した特別支援教育の推進

たくましい心身を鍛えるための力点

- より高く目標を設定し、その達成に向かって努力する児童の育成
- 「早寝・早起き・朝ご飯」等の生活習慣の定着
- 「気づき、考え、実行する」を合言葉に、自発的で奉仕的な活動の推進
- 話し合い活動を通し、自分たちで課題を見つけ、解決方法を考え、行動する力の育成

安心・安全な学校づくり

- 「自分の命は自分で守る」行動が主体的にとれる意識の向上
- 関係機関と連携した効果的な避難訓練や防災教育の実施

つながり響き合う教育の推進(縦のつながりと横のつながり)

- 発達段階に応じて地域の自然や文化、産業等を学ぶ活動の編成と内容の充実
- 学校運営協議会を主体とし、保護者と教職員、地域と学校が課題を共有し、協働で課題解決を図る取組
- 小中一貫教育の内容の更なる充実(小小・小中の交流、合同授業研究)

【到達目標・数値目標】  
数値は「よくそう思う」(強い肯定)の割合

○学力の向上

- ・学習の内容が分かる (65%以上)
- ・意見の交流や深め合う授業づくり (50%以上)
- ・家庭学習の定着・習慣化 (30%以上)
- ・読書が好きな子ども (50%以上)
- ・週末読書実施率 (30%以上)
- ・ICTを効果的に活用した授業の実施 (50%以上)

○豊かな心の育成

- ・自分にはよいところや得意なことがある (70%以上)
- ・子どものよいところを見つけ、認めている (30%以上)
- ・クラスの友達のよいところを知っている (60%以上)
- ・友だちと協力して学習や活動ができた (60%以上)
- ・地域や学校で誰にでもしっかりとあいさつをしている (70%以上)
- ・縦割り活動の充実と地域の方との交流 (70%以上)

○心身のたくましさ

- ・自己目標の達成に向けて努力できた (75%以上)
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身につけている (50%以上)
- ・学校をよりよくするために気づいたことを実行できた (55%以上)
- ・JRC活動では、様々な活動をやりがいをもって最後まで取り組むことができた (55%以上)

○安心・安全な学校づくり

- ・学校は、安心できる場所だ (65%以上)
- ・子ども一人一人に居場所がある学級・学校づくり (50%以上)
- ・こども安全点検で自分も周りの人もけががないように意識することができた (60%以上)

○つながり響き合う教育の推進(縦と横のつながり)

- ・本庄が好きで誇りを持っている(70%以上)
- ・地域を取り入れた教育ができています(学校地域連携カリキュラムの活用)(70%以上)
- ・児童が中学進学への不安を感じていない (30%以上)
- ・教員が小中合同の研究授業の効果を感じている (50%以上)
- ・教員が他学年や中学を意識した系統的な指導を展開している